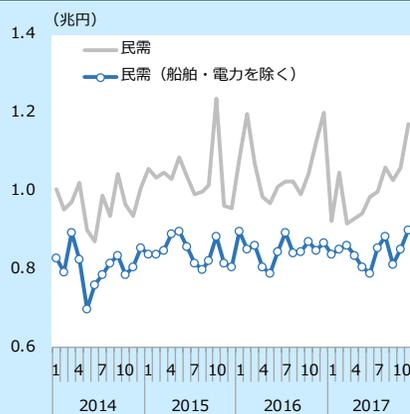


日本：機械受注統計（2017年11月）

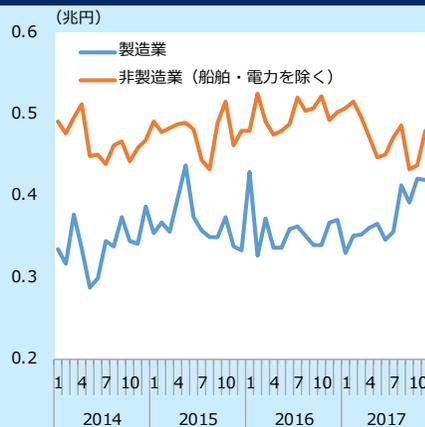
—好調な輸出・生産を背景に緩やかな回復を持続—

MRI Daily Economic Points
January 17, 2018

図表 機械受注額



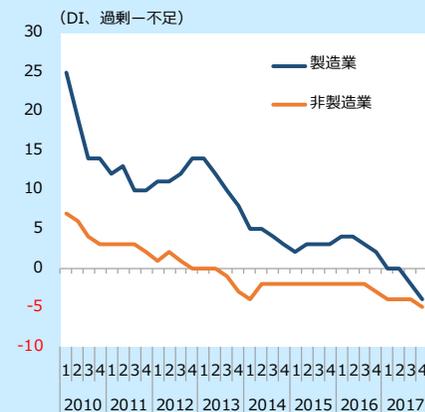
図表 製造業・非製造業別



図表 製造工場稼働率



図表 生産・営業用設備判断DI



評価ポイント

17年11月の結果

- 民間設備投資の先行指標である機械受注の民間（船舶・電力を除く）は、17年11月において季調済前月比+5.7%と前月（同+5.0%）に引き続き増加した。受注額（8,992億円）は08年6月以来の高水準であり、リーマンショック前の水準を回復した。
- 製造業は、同▲0.2%と僅かながら減少したが、製造工場の高稼働と設備不足を背景に、17年8月からの回復基調は維持している。業種別にみると、非鉄金属（同+309.3%）、金属製品（同+25.9%）、その他輸送用機械（同+45.2%）等の寄与が大きい。輸出が好調な半導体製造装置を含むはん用・生産用機械も同+4.5%と増加基調を維持した。
- 非製造業（船舶・電力を除く）は、情報化関連投資や省力化投資が活発で、同+9.8%と大幅に増加した。業種別では建設業（同+24.9%）、卸売業・小売業（同+59.6%）、リース業（+34.2%）の伸びが大きい。
- 外需は同+4.9%と2ヶ月連続で増加し、堅調な世界経済を背景に回復を持続している。中小企業からの受注とみられる代理店経由の受注については同+4.7%と5ヶ月ぶりに増加し、均してみれば増加基調を維持している。

基調判断と今後の流れ

- 機械受注は業種による振れはあるものの、輸出・生産の好調を受けて、全体としては緩やかに回復している。
- 先行きの機械受注は、緩やかな回復を持続すると予想。製造業の工場稼働率は高水準を維持しており、生産・営業用設備判断DIをみても設備の不足感は製造業・非製造業ともに一層高まっている。今後も省力化・自動化を目的とした設備投資は底堅く推移するだろう。また、輸出・生産が好調を維持する中で、半導体関連等の輸出型産業における設備投資需要も増加基調を維持すると予想される。